

令和2年度 学校評価報告

草加市立 花栗 中学校
(令和3年2月2日作成)

1 学校教育目標	
「自ら考え 心豊かに たくましく生きる」 ○学力を伸ばす生徒 (知) ○豊かな心を育てる生徒 (徳) ○心身共に健康な生徒 (体)	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
1. 学習指導の充実 2. 生徒指導・教育相談の充実 3. 豊かな心を育む教育の推進 4. 心潤う生活環境づくり 5. 学年・学級経営の充実 6. 充実感を味わう学校行事・生徒会活動 7. 学びを支える健康・安全 8. 特別支援教育の充実・体力づくり 9. 幼保小中一貫教育の推進と開かれた学校づくり・保護者、地域との連携	成果 ○落ち着いた環境の中で、生徒が授業に集中して取り組んでいる。本年度は、制限がある中での活動となったが、生徒会活動等で生徒が自立した活動を意欲的に行うことができた。 ○明確な指導方針を示し、全教職員が共通理解のもと『自ら考え 心豊かに たくましく生きる』生徒の育成に取り組むことができた。 課題 ●「学習指導の充実」を目指し、授業力向上に向けた実践研究の推進や家庭学習の充実、自ら主体的に学習する生徒の育成に力を入れ、更に基礎基本の確立と学力向上を図る。 ●人権感覚の醸成と道徳教育の実践研究や言語活動の充実に関心をもち、豊かな心の育成に向けた取り組みを更に推進する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員が学校教育目標・方針を理解し、連携・協力し合い、運営にあたることができた。 ○職員会議等を効率的に運営し、共通理解を図ることができた。 ○新型コロナウイルス感染予防対策のために、有効な予算を執行した。 ●校務分掌の精選、適材化（過重・定数の加減等）を図り、働き方改革を推進する。 ●各分掌の取組、課題を明確にし、次年度に引き継いでいくようにする。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員研修担当教員を中心に、計画的に研修を進め、学力向上、道徳、働き方改革等におけるテーマにおいて、確実に実施することができた。 ○人権教育において、身近な人権課題に関するDVDの視聴や県からの研修を生かした内容を採り入れることや、「いのちの学習」の充実を図った。 ○教職員事故防止研修として、管理職研修、演習を含む研修等を通して、教職員が自分事として主体的に取り組めるよう、内容の充実を図った。 ●若手教員やミドルリーダー、さらに管理職候補者の育成を図る。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○感染予防対策として、情報共有を図り、徹底した対策の実施を図ることができた。 ○健康観察や校内の衛生管理等が適切に行われた。 ○登校安全指導を通して、交通安全や交通マナーを指導できた。 ○定期的な防災訓練、避難訓練等、感染予防対策を講じながら、実施することができた。 ○月一回全教職員で学校施設の安全点検をし、迅速に修繕を行った。 ●危機管理マニュアルの見直し、全職員への徹底を図る。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の管理、保護のため、学校全体で組織的に取り組み、校内取扱規定を遵守した。 ○校舎・施設等の安全点検と修繕箇所の修繕を迅速に対応した。 ○校内で個人情報を取扱う場合の遵守事項を徹底し、情報流出防止に努めた。 ○会計事務に関する校内規定を遵守し、会計に係る校長の決済を受け、監査等も適切に行った。 ●情報管理等の研修を定期的に行い、教職員の意識を更に高めていく。
	⑤地域との連携・開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各種だより等で、教育方針及び学校教育活動の内容を保護者や地域に積極的に発信することができた。 ○新型コロナウイルス感染予防対策のため、PTA活動は大きく縮小したが、制限のある中で、情報共有し、植物の剪定や校門のペンキ塗り等、学校環境の整備を協力して実施することができた。 ○年間5回以上の学校運営委員会の実施により、地域の意見を取り入れ、開かれた学校づくりを目指すことができた。 ●感染予防対策を講じつつ、各種連携、活動を推進していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中乗り入れ授業を充実させ、児童生徒の情報交換を密に行い、一貫教育の充実を図った。 ○教科ごとに、小中一貫教育としての系統性を持った授業を実践した。（英語授業等） ○研究授業等を通して授業参観を積極的に行い、小中一貫教育を推進することができた。 ●全教科、15年間を見通した計画を立てて一貫カリキュラムの見直しと更なる充実を図る。 ●コロナ禍で実施ができなかった部活動体験や小中児童生徒の交流などは、来年度の情勢を考慮しつつ、実施していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針を踏まえ、教育活動に取り組むことができた。 ○臨時休業期間の学習指導や休業明けの教育活動については、十分な学習の確保を実施し、次年度に繰り越す内容もなく、授業時数を確保し、教育課程が実施できた。 ○テスト前の学習会や、希望者への補充学習を行うことができた。 ○感染対策を徹底した上で、合唱祭を実施し、豊かな心を育成する大きな成果を得ることができた。 ●宿泊を伴う体験学習は、感染拡大を考慮し、実施することができなかった。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時休業に伴う、指導計画の変更もあったが、授業における適切な評価・評定ができた。 ○主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、ICTを活用した授業が展開できた。 ○授業動画等を積極的に活用し、臨時休業中も学習機会の確保に努めた。 ●学区内にある獨協大学との連携事業は、感染拡大防止のため、実施できなかったが、来年度の実施に向け、準備する予定である。 ●個々の生徒の習熟度に応じた指導方法を工夫していくとともに、より対話的、主体的な活動となるよう、言語活動を充実していく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○花中スタンダードの道徳に今年度も引き続き取り組み、全教職員による道徳授業の実践を積み重ねることを継続している。 ○校内授業研究会を行い、道徳の指導方法の工夫について研究を深めることができた。 ○全学年において、「いのちの学習」を計画的に実施し、内容も充実することができた。 ●指導と評価のあり方については、継続して研究する必要がある。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒主体の活動を意識した指導を心がけ、リーダーの育成や自己有用感の向上に繋がる指導が実践できた。 ○生徒総会で決議した「花中宣言」を生かした取組をすることができた。 ●生徒の主体性を育成する行事が大幅に縮小されてしまった年であったが、次年度へ向け、思考力・判断力・表現力を高めるための場を設定していく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生は、上級学校の先生方をお招きし、上級学校の様子を知ることができた。 ○生徒の探求心を深める課題を設定し、その発表も含めて、学習を見届けることができた。 ●課題設定から課題解決ができる生徒の育成をめざし、さらに探求的な活動を意識した年間計画・指導計画の再確認と充実を図っていく。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業、休み時間、給食などにおいて生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒の小さな変化に気づき、早期対応することができた。 ○生徒指導や教育相談の連携や各部会の在り方を見直し、同歩調・同一行動で諸問題に多面的に対応することができた。 ○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめに特化した対策会議を実施することができた。 ●年間5回以上のアンケートの実施や三者面談、教育相談等や魅力ある学校教育の推進を通して、不登校を未然に防ぐ教育活動を実践していく。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも計画に基づいた系統的な体験学習を実施することができた。 ○職場体験は実施できなかったが、高校の先生を招いての進路学習会など、計画的に実施され、生徒の進路キャリア教育の学びにも繋がった。 ●キャリアパスポートの効果的活用を努める。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の個別の指導計画・支援計画に沿って全員が学習を進められた。 ○校内支援体制の整備について、学年内での共通理解が図られている。 ○教科や行事、給食など、通常学級と計画的に交流が図れた。 ●生徒・保護者の一人ひとりの願いや思いを大切にしたい支援・指導を更に進めていきたい。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動推進校として、週2回の読書の時間を設定し、読書活動の推進に努めた。 ○3年生代表生徒が、市内ビブリオバトルに参加し、優勝することができた。 ○図書館司書や図書委員による図書室の整備や掲示物などで、図書室の利用環境を整え、貸出し数も増加した。 ●多くの生徒が更に活用できるように工夫をした図書館運営をしていく。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で、多くの教職員がICTの活用を積極的に行っている。 ○SNSの利用や情報モラルについて、集会やクラスで定期的に指導することができた。 ●全教職員が機器の活用と効果的な使用を目指し、情報機器の一層の充実を図るとともに、活用法についての研修を随時行う。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○他者受容や生命尊重などの課題に関して、日常的に人権感覚の育成を積極的に行っている。 ○人権教育の研修において、人権課題に関するDVDの視聴や県の研修を生かした内容を取り組み、教職員の人権に関する意識が高まっている。 ●研修を生かし、授業を始めとする教育活動に生かしていく。特にSNSに関わっての責任ある発信や他者を思いやる心、人間関係作りについて積極的に取り組み、人権感覚の育成を図る。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	・心の教育の充実	・体験的活動の充実 ・指導方法の工夫 ・家庭・地域社会との連携	A	○「いのちの学習」では、体験的活動もあり、計画的に内容の充実した実践が実施できた。 ○生徒は、気持ちの良い、積極的な「あいさつ」を自然に行っている。 ○道徳教育の指導方法を研究し、生徒が自発的に物事を考えていけるように取り組んでいる。 ●感染予防対策に努め、参観の機会を増やす。
	・潤いのある生活環境づくり	・学級活動等の充実 ・学級応援団との連携 ・施設設備の管理と有効活用	B	○PTAと協力し、花壇の整備等を通して、潤いのある生活環境づくりを行い、また、美化委員が継続して管理をしている。 ○清掃活動に力を入れ、常にきれいで整然とした学校環境が整っている。 ●安心安全な環境を目指し、積極的に破損箇所の確認と施設設備の充実を行う必要がある。
	・学びの基礎づくり(生きる力4カ条)	・目標、方針の周知 ・指導内容の充実 ・評価の工夫	B	○生きる力4カ条を、生徒、教職員が常に意識しており、学校全体が落ち着いている。 ○学年・クラスで、家庭学習の取り組み方を具体的に提示し、毎日取り組ませ、また、学習シートの活用など、丁寧に評価しながら定着を図り、学力向上へのきっかけにしている。 ●「生きる力4カ条」に関し、課題を見つけて解決に導く指導だけでなく、生徒自らが解決に向け積極的に行動できるよう意識して取り組んでいく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・生徒のアンケートからは、16項目中、14項目が昨年度の数値を上回っており、特に、「友達に思いやりを持っている」97%、「ルールや約束を守っている」95%と、高い成果を示している。一方、学力面で、生徒の実態を把握しながら、課題を分析し、質の高い授業の実践を目指し、学力の向上を図っていききたい。
- ・保護者のアンケートにおいても、16項目中、14項目が昨年度の数値を上回っており、「お子さんは、心身共に健康である」96%、「お子さんは、豊かな心が育っている」95%と、高い成果を上げている。感染予防対策においても、学校の取組を96%の保護者がしっかりと行っていると回答している。一方、「学校はお子さんに学力をつけている」は77%と他項目に比べて低く、学力向上が今後の課題である。本年度は、道徳教育の授業研究会やいのちの学習、不登校対策に重点を置き、生徒の心を育てる教育に取り組んできた。他者を思いやることや自分を大切にすることを、あらゆる教育活動を通して進め、今後も『生徒一人ひとりの良さや可能性が発揮される学校教育の推進』に教職員一丸となって取り組んでいく。
- ・幼保小中一貫教育の目指す子ども像「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる子ども」を目指し、全教育活動を通し、実践に努めた。0歳から15歳の学びを意識し、花栗中校区のめざす子ども像に向けて、一貫した教育活動に取り組んでいく。

6 次年度の改善策

- 学力の更なる向上に向けた取り組みを推進するとともに授業改善と指導力向上を目指す。
 - ・「全国学力学習状況調査」、「埼玉県学力学習状況調査」、「草加市学力学習状況調査」の分析を生かした具体的な学力向上の手立てと効果のある取り組み及び実践研究の推進
 - ・「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けた授業改善や指導力向上に関する実践研究の推進
 - ・家庭学習の充実を図るため、学校内でのよい取組の共有や、家庭、生徒への発信
 - ・全教科・領域における新学習指導要領全面实施に向け、年間計画・全体計画等の計画的な準備
- 豊かな心の育成に向けた取り組みをあらためて確認し、生徒1人ひとりに寄り添えるよう、丁寧に推進する。
 - ・生徒理解を第一に、生徒の成長を実感できる教育の実践
 - ・主体的、多面的に物事を考えることができるための道徳教育の実践研究
 - ・生徒の主体性を生かした学校行事の質の充実
- 保護者、地域、諸機関と連携した生徒指導・教育相談活動をさらに継続・推進していく。同時に予防的な取り組みも含め1人ひとりの想いや悩みに対応できるよう再度確認していく。
 - ・生徒・保護者との積極的なコミュニケーション、相談体制の充実、関係機関との連携
 - ・いじめ、不登校生徒への積極的、組織的な対応
- 花栗中学校区内での幼保小学校等との連携を更に強化し、0歳から15歳の学びを意識した教育活動の実施。
 - ・15年間を通したカリキュラムの編成、実施
 - ・中学校区の幼保小中すべての教員の共通した指導観、「めざす子ども像」の共有と接続のあるカリキュラムの実施

